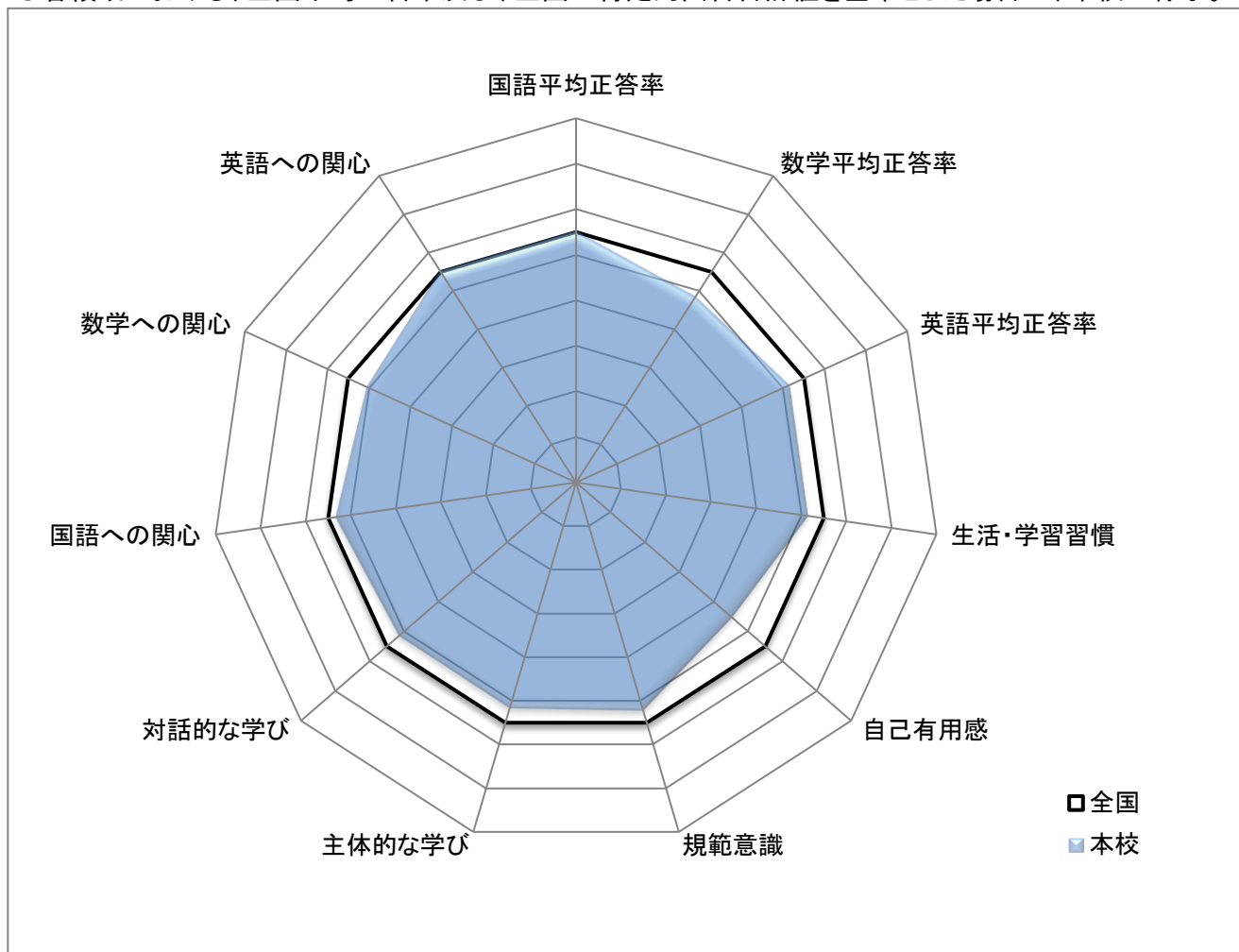


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

英語では、全国平均と比べると「聞くこと・読むこと」が2.2%、「書くこと」が6%下回っている。特に「書くこと」に関する力が弱い。国語では、全国平均と比べると「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で若干下回っている。「話すこと・聞くこと」に関しては正答率が高く、平均を越えている。数学では、全国平均と比べるとどの分野においても正答率は低いが、その中でも「数と式」においては12%以上の差がついてしまっている。計算処理能力が低いと推測できる。

《授業改善のポイント》

英語では、スピーチの発表や1分間チャットへの取り組みなどの活動を通してプレゼンテーション能力の向上を図っていく。また、ペアやグループでの対話活動やアクティビティ、リスニング活動の時間を多く取り入れていく。さらに定期的に小テストやスペリングコンテストなどを行いながら定着を図っていく。国語では、話し合いの時間を設け、相手の話を聞いて自分の考えを深化させるようにさせる。語句の意味調べの回数を増やし、ことわざや熟語の使用例を考えさせる。数学では、計算問題を解く時間を増やし、計算処理能力の向上を目指す。また、グループ学習や教えあい学習などを積極的に取り入れ、考える力、教える力も向上させていきたい。さらに、学年や分野に関係なく知識の関連性を教えていく。

《チャートの特徴》

教科に関しては「関心」と「正答率」の関係が比例している。数学に関しては苦手意識をもつ生徒も多く、家庭学習で数学を積極的に行う生徒は少ない。それが正答率にも表れている。少しでも興味関心を高める必要がある。生徒質問の内容に関しては「自己有用感」が極めて低い。言い換えると自己肯定感が低く、自身を否定的にみている生徒が多い。教科だけではなく、学校生活全般で成功体験を多くさせられるような活動を増やし、充実感や満足感を得られる機会を増やしていくことで自己肯定感を高めていく必要がある。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・家庭学習の定着
- ・家庭と連携し、自宅で学習する姿勢を定着させる。
- ・授業公開における実態把握 授業公開に積極的に保護者に参観をしていただき、生徒の実態を把握していただく。その上で個々の課題を面談等で確認し、各家庭で協力していただく。
- ・外部の方に講師等を依頼し、授業をしていただく。